源氏引哥

源氏物語引哥

さくらつか

さくらこそいとあはれなりけれ〜のさむしろにあれこそ〜ふるれまたれぬ夜ぞ

明石

恋ゝ我いとるるすゝをちらくん昔ゝ世ゝそゝまゝ〜ゝれ　ゝ源内親王

後撰雜二

ゝすゝゝゝあるゝまゝれゝ枝をあゝ地をけ紙ゝゝ疵をいゝゝゝゝゝゝゝゝ　友則

古今恋二

ゝゝに出ていゝめゝゝゝゝゝを河下ゝゝひてゝゝひ〜ゝゝれを

万

義ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれどゝゝれゝを後らゝゝゝゝれゝゝけゝゝ　伊勢勝延

古哀傷

ゝつゝゝゝゝゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

後雜一　人のちやの心やうはあれども思ひぬるかな　兼輔

新勅撰上　[illegible]人もすき家なれとうゑ八重葉まさけなるとも　紀貫之

[illegible]

大和物　いくらしてありしきれしきの松のねとしんことをしてし　兼輔

後雜一　人のちやのこころやうはあれども思ひぬるかな

朗詠　夫ごとれいくるうすをちらんむしはせをそこまはし　雅正

後文　[illegible]島の[illegible]をもれをもいろ地うゑ[illegible]すくをのこゑり

天暦御集　いくらその世をそのの後の後の世をそのとうゑ島どるゑん

伊勢集　[illegible]すくれあくををそてい地を[illegible]ど知るひけるか　敦宣

拾遺　ゆひ初うそうまゆひのこむ[illegible]紀衣のいろようれをそ[illegible]

はるあり

拾雜秋　[illegible]人の[illegible]ゆひさたく　俊正遍昭

新古今五二　[illegible]のすり衣志のふのこころ[illegible]　在原業平

拾遺四　[illegible]　[illegible]

拾遺秋　[illegible]

秋風のうれ[illegible]

古雜下　今さいにとうくさ人もなる[illegible]八重むくして門　[illegible]

古雜階　[illegible]

後五文　[illegible]

古反　[illegible]

伊勢　[illegible]

拾雜賀　引[illegible]　平定文

古雅
ありぬやとこころとそらにあひうらなひいえみれてくさまくそらつき　ふるいけ
後秋上
あつまのはせをつあまはちちゝこそちぬふるさもあそすそあさう
後秋下
こうこに秋ふもあうかう立田姫もみちそむるや山をこそうらん　伊勢
拾雜
雲ねてあひくこゝあ月こゝを秋やこゝてゆくこれいなし
催馬楽
ゑ弁こやとりはすへしみもひもむしこまくさまう　ふるいけ
古秋下
秋はこゝあもみちは宿こありこゝあ花をみてこふ人もなし　ふるいけ
古秋上
初てこはちちそこあへき秋萩の枝もこゝこをけふこゝ　ふるいけ
古夜
ちりそこるもへしこそちふこゝふこゝ妹こゝありこゝ夜の秋　ふるいけ
後秋上
ひこはしのまれあふ夜のこゝいうちこゝへこゝ彦けこゝ　ふるいけ
世中はこゝへこゝくこゝあふりこゝくこゝふこゝすちこゝ
風俗歌
むこれのこゝあこ中ふこゝへてあこはいこゝやこゝふなこゝこゝ

ふもあこゝあこゝこれ秋ふこゝあこゝあるこあける
催馬楽
こはへんはこゝこゝちやこゝこもこゝこれこゝ秋ふこゝをむこゝこゝん
こゝこれこゝあこゝこけんあこゝひこゝこゝこゝをけこゝ
拾遺こ
いこゝこゝこはこゝれ竹の一枝こゝこはこゝこゝこゝこゝん　ふるいけ
こゝこ人こゝ物こゝこゝや世中をこゝこゝこれ竹こゝ物こゝん
万
竹こゝこゝのちせの山の後こゝ文こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ　ふるいけ
古意
こゝれこゝこゝこゝこゝこゝて秋宿をこゝこゝれこゝひこゝ人のこゝこゝこゝ　ふるいけ
新勅撰二
初秋の名こゝこれこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこれ
こゝこゝ秋こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこ

万
夕やこいうちてくくし月まちてくれわせこそれまるをうん
六義集
いつれゆれゆけられそまひのうハくきいれるれナ六
六拾二
風ものけと人るいのてたハ所くしあけんと思よいのてし現代
よみ人しらず
拾遠二
思うつの湖のうつ冬のうれうつるけうつやそねくく
よみ人しらず
うつハきあひつハちるようつくくれて恋れこれめそいとちるり久
後撰
すくうやまいせおれあまれすて夜されあれうど人やうるくん
これまさの朝臣
古今
物ちりまくくさうつ人へまちくき逢ぬ紙ちるくあ人をてもくしつがく
平兼文
うつくくを絶るをうや世中せいりくしるくれわれうがらをうん

夕かく

古雑下
世中いのうれくくしてわるくんゆくと海ふくそやとくくふむう
よみ人しらず
六拾
ちるくもんこ恋のうてちるもいをむうくくん宿こふうつくそねめ

古拾遠恋
打つるをちるくん人こ物すすれそれそ六さうくハ何れ恋そも
躬平
古雑上
世中ようくあうれのるくまれの世ものいのうん人
友則
古今二
夕くれハ雲うるとけこよあれるひうこうや人のつれわさ
万
あくくすいくくちるくこそわせこうあうけのすくうれハるる
深養父
古拾
冬ちるくく恋のうるれちうけれハ中垣ちうそれそちりけう
万
うそくくをこちるる山のさるうとあれそくくしどこうあうく
古拾上
ちるれちるさ中河くくあども恋どうくふくけうあやそ
俊正遍昭
雲ハあれて人へちうくあるれや夜もまう紅も秋の明くくちる
よみ人しらず
新古雑下
白波のうすうちるくそる世後くくもあまれこるれいやどもくうめす
典侍藤原朝臣
古今六
あまれうるまくすむくくれ我くくどれそそちるめ世をいうくく
六拾
恋ちうくくくくくとれどのくくそちるくうくうくと

後雜二
年ゝれい式ゝ
拾遺四
ゝふゝていゝゝゝ人ゝゝゝ
拾遺四
わゝゝゝれゝゝゝゝゝん
万
うゝゝゝれせいゝゝゝゝゝ
古志
こゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ
古志四
ゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

わゝゝゝれ

新古歌下
古雜下
いゝゝゝん岩ゝの中ゝゝゝゝゝゝゝ
万
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひゝゝれ廻
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俊忠二
紙紬い名ゝゝ事れ仏山ゝゝゝ波のゝゝゝ日しゝ
古忠ゝ
秋のゝゝゝ多ゝ秋ゝゝれ紙ゝゝもあゝゝゝゝゝゝゝゝ
元真集
ゝゝ紙ゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひまもなくふるさとのみちたどりあるかれ春こそ夜のみけしきとそれ
もろ門の一村すきうりうんうみかるれのこゑもこぬれ 小町
けふの日記
さくらはあれこそまさるれのこゑもくらもりれて下枝
ちるこそまちろこそまちつとめてまくいとうち地もなを子
新勅雑下
ちてふしとちるこれこそうちうれ ふそ人しらす
後拾遺
くくうんくんのさをそんぬれさぬいさひあくを今うさもん 中務内侍
催馬楽
やまうちれこゑのうとつろやらいちやさいちやうつ
ちうつうれ 二段 うとつろ紙おやしをいをそおやらて
ちやさいちや 三段 いをそんちやれをうちうまてやらい
しちやさいちやうちうしうまうしうまてま 催馬楽
おつまやのまやのあまろれそのあまそき紙ちうれぬをれとひをを

二段 くすひもをしあくいとそをれどんのと紙さあをいちうひ
てらをを紙やへつま
古今集
ワせこゝくさをひちりうしうれちうまひろてちうしも
六段五 くれちあれをそれ衣をそこれをんうへをりををちうんうも
新勅撰四 ちうれての後そちうしを湘川そををあいつをちりぬと女へい
催馬楽 石川のこをちうををちりををそれてうををちうひすち 二段 いちうんいをんちう
初ひそをちうをれ常れちうひてうをを 三段 ちうちやちうちうそをを
古今集 いあくをれ春の山をちうひをや河いをくちうへよ紙名ををすれ

新古今
花のそをん
てちりををすくをちりををそちあ常れちあ用ちうをを 大江匡房
催馬楽
ぬをを川のせをれやちうを海をちやちうをちやをちうつま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後五二
[illegible]
拾五四
[illegible]
[illegible]
[illegible]

元良

人こゝろ心のそこをしらねとも
やはらとちかくもらすなりけり
行基

はけしさをとゝのへかねてこゝろにも
こゝろをつくしてをしと
素性法師

後撰一

ときはなるこゝろをしらぬ人もなし
なにはのこゝろ

なにはのさいさこのさいさこの二句
おのへうそう白玉樓しまやまさ三句
それもとゝんまりしもとゝまり四句
わりをさゝおのそれをまえ若
おきみ殿ちうしまさんちうしもちうしも六句
心をさいくんゆり
をるれさゆり茶の殿
けさいうちう茶こあいまし地をさゆり茶の

茶ちうさと

奥
こゝろをとゝまれまうをなりはいうんしうをゝ
はりはいうちう
ゆうしへのことくくへいはとくこゝろをいこまりてうゆうこゝろ
くちう茶のをちうしゆとくこゝろをくこゝろをくこゝろをくこゝろをくこゝろ

古別

ちうの事れうちいうさくわうとゆきめうりてをあわうんとそこふ
友則
ちうこんちうす

古五二

我無いり法をうまをてまうしあうれをうりとおりふをうりて
在原ちけうち

古長

うりをめれゆきうひちうをやひうしいまけをうれうとをちうる

伊勢

いくいをこのをるいはれるさいうれてこうるひらうちけくこうられ
ちこんちうす

古新下

いうるうん岩はの中をすまいいう世れうをこれをてこうをうん

行基

古五八

あひをあのて地をふこうるの秋をやうう月をんめるるくうねうる

後離別

ゆくさ秋秋をうあうをれうるをいうをめれまくこおけうの蛾をう

ちこんちうす

後離別

をいうけうくをあうてふるうくう川まけうを神ををちうるくくしうる

ちこんちうす

新古長

あういちうくうちうさいうくすをふ世中をあわれいうれの日ををちけうん

小町

古新下

はうりうるうさ若をいい若をとうをれいを若をとくをうちうる地をひうるし

深養父

新古秋上 このゆふべ人わすれがほなるあはれひめしつる 赤人
古新下 ことゝとゝまるこゝろ人あるはなごりのうらとこゝろよ 行平
玄二 みるかの湖おちそひこの河のみなきはまりて世をへゝるり
白波はいとちさくくもりすまれ波のみなあいうんとそ世をへ
六帖 ひとをこゝろそはうそみまれたるらをむつまーおゆりさせを 兼浦
後新一 人のちやの心やうあるゝともあれやふこちよ海ひめりれ
世人はあやうきをそちゝいひはふあまのりてちうれうへうく 赤人
古秋上 まれまうちうる自れけられ心つくしれあきはこゝよくを 行平
後古雜 しひ人のあもとすしくちうよはうり関吹こゆすまれうをを 赤人
拾新恋 湖河みまされもやちゝ人の松のうさてゝまうさうん 赤人
玉新二 波ゝはいかゝれむもうめへしやちうる風もあまれ

百恋一 ひそれを人かとあそ世舟のゆゝのあるゝまれゝふこゝろそ 赤人
古新下 せひゝやいちれまれるおゝうゝてあまれちゝさいうりそんと 赤人
新古恋下 もゝちゝれちゝ人はゝ海あれやさゝうさて久ちゝくゝ 赤人
後新二 うれゝゝゝもうゝさゝと心はひうゝてうれめれはゝさちり久 赤人
雜恋三 あすあゝやうはけへしけうけはうみをひゝさむしまくゝ
拾恋四 我ゝへゝうゝのうゝ海心あはゝさゝゝそるとのれゝるけ

あゝ

恋 ゝゝ湖おちゝひ川のみゝはまゝて世をはゆふれ
あゝ玉海のゝ海のやはあひゝやゝ海はくゝまれはひゝゝ海ふ
後新二 波ゝのゝめれつゝ物我吹風のゝ海ゝうゝれゝさあまれはをみれ つゝゝさ
拾新秋 秋ゝゝたりつゝはれゝゝられと考ゝゝ分をゝさゝゝゝゝさ 恋見

あるじしてものがたりしあまびとのもとにつかはす
新古歌上
あるじしてものがたりしあまびとのもとにつかはす
月はなほさやけきかげにかはらじをまちしあかつきのこころ
まちつるあけがたのくもゐにかすみていれるあるかなん
はるかぜにまつのこずえはかすみつつ
雁ぞなき
いそがぬ海のさかなにたとへてやつまんのやどりをとはばいな
古歌
やどりをとはばいなとつまのいはしるべ
新勅撰
うれしかりしかぬ昔を抽ぬきてこころをとこのかたりぬれ
後撰
行くすえをかへりみぬ世のかなしさは
思ふ
あるじしてものがたりしあまびとのもとにつかはす
あまびとのこころをしるしてやまのこずえにかすみたちぬる
古歌
ありあけのつきをまちつるあけがたのくもゐにかすみたちぬる
後拾遺
あるじしてものがたりしあまびとのもとにつかはす
あまびとのこころをしるしてやまのこずえにかすみたちぬる
源信明
ちはやぶるかみのいさめのそこにすむ
海人の
ちはやぶるかみのいさめのそこにすむ
海人の
ちはやぶるかみのいさめのそこにすむ
海人の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古新下
さひしさやのまれまとれよおとろくてあまれるしら沢いさりをんとい
古秋之
志ま山ふるまよやつゝ高くまもりのひそるまーろとろ

ちゝ人云くす

ちゝ
古来三
ひろ代ねゝ山こゝ吹風を人ゝまゝやことけをやん
子のこゝのよの子命をゝそゝしられゆひてさ沢ろひるゝへく

雲風
古三二
寄ゝ月ゝ心を寄ゝまゝきゝてをゝくゝとゝれ恋ひそつく

つゝゆき
こゝれ木のこゝれをゝれてこゝるれおい志ーゝんや志ーゝゝや
古新下
ありゝそゝ命まゝれほゝゝゝろ沢ゝゝゝ沢ゝゝみゝゝゝ

平左文
伊勢
世中ゝよゝゝゝれのゝくゝまゝれあせゝゝゝけく人のゝれゝ元

人丸
古新
ほのくゝあゝれゝゝれ沢ゝゝゝ風ゝれゆゝ月をゝそゝふ

ゝのゝえハ行ゝるゝまゝもすけゝんゝゝ世中ゝくゝすゝゝれ
世中ハゝゝくゝゝゝりゝくゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
元真集
里ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新古新下
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

天暦五年
古新上
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
伊勢
今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いつを
古新下
久ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ
新古新之
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のゝえハ　おゝゝゝ
拾玉
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝいゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うす雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾雜下
功やの功やこ功をしまりハこひてまりつるれあるこ見あるめ四章
後拾遠三
今ハこゝろひこゝるんこゝろ紙へつてをそいつりまれ乃雅
をゝこゝこ四つゝこのをこゝろのをこゝろれハこゝこ家ゝまてをまつふ
玉こゝこゝよりあゝこゝるゝいこゝこ門いこゝこゝへて紙名ゝこゝすゝ
拾雜秋
いこゝこゝてゝこゝこゝあゝてゝん冬の月まれ見ゝこゝ見ゝこゝこゝ元博
拾玉子
こゝこゝのこゝめゝゝこゝこゝこゝ家の山こゝこゝこゝくゝこゝりこゝけゝこゝ

をこゝん

秋ハゝ紙ゝゝまゝこれゝこゝこゝをゝこゝ嶽のこゝ見嶽のゝ下ゝ面
俊馬卿
こゝこゝへゝせんゝこゝこゝこゝこゝこゝきゝハ空ゝ家ゝこゝの家嶽の家こゝすゝこゝこゝん
夕ゝこゝこゝ雲ゝのゝこゝもゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝん
後古拾之
吹ゝれハ月ゝをゝこゝけゝ秋風とゝいゝこゝこゝ秋とゝ月ゝこゝひゝけゝこゝれ 春則

ゝこゝ

拾新之
乙女子ゝ神ゝゝ山のゝこゝ門ゝこゝこゝ海ゝこゝこゝ海ゝこゝ人丸ゝ知ゝてゝき
とゝめゝとゝしゝとゝめ
平度綿度成邑度綿尼備須毛可良多万半多義度
さまきてとゝめさひからさまをたいと
逆麻波度平度綿尼備須義
拾遠一
こゝこゝこゝこゝ海のゝこゝ風ゝゝこゝこゝ心ゝこゝ月ゝこゝこゝこゝこゝあゝこゝ 金
後百番
あゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五十
梅雨
催馬楽
古新下
古新上
拾遺
素性法師
後撰一
信明集
催馬楽

ことゝ
心
後撰
古拾
催馬楽
古拾
伊勢
古拾一
大和

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六花

[illegible]

古意四

みちのくにおほしまの人の家波のちまきをつゝみ紙にひやく

うるとし

新古今

[illegible]

古意二

[illegible]

のちまき

後拾遺中

[illegible]

拾遺下

[illegible]

拾遺下

[illegible]

後拾遺中

[illegible]

伊勢

[illegible]

古意四

宗祇のもとにあり[illegible]と[illegible]

古意二

[illegible]

後撰一

人のあやの心をやうるあくるとも[illegible]

みゆき

伊勢

[illegible]

明衣集

[illegible]

新古意二

[illegible]

後拾遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅うえ

古巻上
梅の花〜ちりうせしかりしかの人のとゝむけうとそしミくら
古巻之
春ゆ
あすかゝてこれはこゝさん梅の花いろをもとゝ人うとろ
催る歌
梅うえてこゝろあり花や春うけてそこれ二ハ春うけてうけどを花ゝ宿ハ
つゝミ故
古巻下
あこれをこうや雪もしりてみて
素性法師
いつまでのくよ心のあくれん花しゝ
一条摂政
精撰集
花の色はあすかゝうとゝうこの寺ハれ〜れ枝よりあるはれ
中務
あるゝ人のゝとゝあけ歌のくゝきとゝろよるゝ
六花六まあるれと
うゝとてもうゝ春もゝすうゝやのゝさゝれるんもとゝろ
古詞
ありあやと思ゝてゝあひゝゝ
よゝ人ゝ
後撰
たちすゝれ人ゝられるゝうゝて梅あゝひうゝいふられ

古巻四
いつとゝとゝすれゝゝ今ゝゝに多ゝ風ゝをゝゝれゝれゝれまん
よゝ人ゝ
後撰
花のうゝ紫
俊勝
人ゝれぬワゝあひ後のをゝさまりゝゝひゝゝゝにけまねるん
つゝゆゝ
後撰下
恋ゝゝにとゝれて花のゝれゝそれ時をゝれゝうゝ
後撰下
夜ゝゝて咲ゝゝれゝうの色松ゝのゝをゝ物ゝひけゝる
後撰下
春日ゝ花のゝゝゝれゝけて恋ゝゝゝ紙ゝれまん
紙屋紙ト
彰古巻一
いゝゝゝ咲ゝゝ紙ゝゝ物ゝひゝゝゝて春ゝあゝゝん
催馬楽
あゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

後撰
紙やうにしたむらーのよもぎーいとおちてーとーとーとまあ
躍ろ系
むろにしやむしーろにしいろのさかりやもむつるれ二句もむつるのや
もむつるのふかせとそとそてそのそひあくるあくるてそあそひある
ろくろいろろきはーーーけさ秋のちいすあまさるれ
拾遺
かすてーーーしるへうーー紙ものれいろ風のくーうんことあはしと
古歌一
ふかうれしくもさーーあはあくしのかさ心をしんとちくるん
世中いあのくろうのくさくーーおわくーーつまれをくそ切ん
やとあくーくうみくーぢのそのよ拾ものるあるうるすうあの秋と
吹をもしーあいいれ芸のくーーしうくそてちくさけくるん
久くくれ春れくくもはのくるくりくる家のををとかせてーる
武蔵古
くくやまるるくるくるそあけくくんくくとくそ

伊勢

古歌一
くくもあくすくくもあ人のをーくくあやるくくるやちるめくくくん

業平朝臣

くくれ下

古歌下
くふのくくと芸をくくるあはくくにをくくとやくくくくれのけくふ
つくあさ
古秋下
ちくくあ山くの紙のいくくさにくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古雜下
今こゝに何のいろこん竹のあれうさつゝきけさせといもーすや
古長
志ろ〳〵一ぬすき出の〇けちげきのへとをりよけうか
後拾雜一
ゐるき人いとをつれまそてこそれ
九月九日
あきちもれか藻ゐ命よとく爲せれうさつとをひこそこ
こゝーこれこそうるあるせゐるせいこゝををあてちけこさしも
古秋上
白雲ゐこゝをちこそーこふうれ
こゝ人しこゝ
「秋風によつて紙をるれぬうゐ〇い蓋をうををくこゝこゝん
心ゐとりまれワこゝういこそをいふをいまこれ
こゝ人ふこゝ
古恋一
ゐいこれ紙ゐるゐるこゐうけてあるまいれをむのをよをん
後撰雜二
いりゐれとへこれ山の山あらきておうりれこそやこゝまこゝうこゝや

古秋上
くこゐうゐのーとをふ爲紙いこゐうこゝよねてあるこん人さへこゐき
こゐ

すむし

古雜下
わりこそめ命まつまれほとこゐうこゐるちけこゐけうまゐ
平安天
後拾中
いつこそも月こゐめ秋いちゐきまれを見こそこゐこゐのゐつこゐこれ
後友
茅ゐ月れいゐをとれををいこゐこゐよ物うゐ分をすくをのこゐう
後撰下
あこゐこれ身と云ををいちーくゐ心ちわこん人ゐこをこゐや
伊勢
後拾明
花山院
心こゐかの月ををこそーこれわこれこれあこれゐるゐを
あつゐ紙のゐここそのこゐのこそこゐゐけこゐき紙分ゐこん
後志三
ゐこゐめや京山色いこゐこゐすこゐ月ゐつこゐれゐこゐこゐゐ
新古雜下
これ人のこそむこをこそめゐ世中ゐふれやーこれ分をいこゐこん
女王

千五百下 一

ちる葉を分るふるさとの月ぞもるかてらしれ老のなけくこれ
乾法一
後秋下
日くらしれし色もいとるくさとめるいあさ夕くれまるれて咲けり
つゆさ
古秋上
我のこゝや袁と物をりんさりくするくゆふけやまとるそしこ
ふる人ちす
大和物語
ちるくそやをもあくをいやしくうしいとうさくる犯こちこそすれ
拾遺系
それ風そや我まれるきこふるさいどりるんろいどり第いどりゝん
和泉式部
後撰系四
袁こうの心をちくるくさられとひとりをうをぬもれるそあり名
まつをもよ袁をぬさるんめれ袁くくうさ名を我のこそこの
ちるさ名そと人をいひてありめへ心れとくいくこくん
ふちの
古雅下
あくさらし独の中をやいりるくん我玉をねのるきこちする
うらね
古雅下
分をすくゆをやちくくんせふりはるるもれもこるゆくり
秋のぬるうそくれめる袁第一秋くるれやとるきちん

正五一
心をいちくをくと人をいをあ我袁つまをこんうしもれ
人丸
わてうつくこ我見れるくこいこてをおもそするる
小町
古排
人をあいんつさのるさをいをひをさそむねくるをひを心やけり
ふる人ちす
古秋上
日くらしれるさめるる人を日いくれめとをふい山のくをまそるる
いくくていくをくくんをれ山のこるをおつるとるのこさ
ちろめ
分れうこ我世れうこされミるるひれいくを大そくくるくん
古別
命くを心をるるふをれるくをもるをるるれのるるくるもし
ふる人ちす
拾雅系
風をやミ袁のくを袁れとをすれいあやるりやすを人のくるる
万
袁るくを行ををくすくあれとも我くをまるふくひのをけさま
ちろめ
古別
命くをくをるるふをれるくをもるをるるれのるるくるもし
ふる人ちす
古系二
秋るれい山をくを心まそるく麻まるれおをくめやひをりめる我い

秋の夜月ひろしあるかれをくふの山をこしぬへしちり
後表　伊勢
なさ人のかけくらしぬやなと水のそこなるこをちてそこ
いるまていくよろしんをの山のうへをおけ家をちの滝
ろろ方よ滝しそそんろしちるれおやさへつしさ意をするか
新古意文　ふみ人しる
ひろはさてろろハ見ろくやまとろれけろはそれをちるれ名
古排　よみ人しる
あろぬやと心ここそしあひこひハ名ぬそれろくさまそそ意しき
ひひそハろろ名名ちしをきちるれちる本号滝の橋のけしこす八

この夜

拾遺　行基
法花経を見ろそしといろろ名ろ名ろてそそて
古意一　てしぬ
山橋くるこの名ろろ滝のろろそしへくて意しろ名れ
古集上　よみ人しる
ぬちちろろこしろ芸八拾しとぬあしろれを見れをりゆく

拾遺秋
秋ちくいろる風のろちれを方ろしこちりあろれるろん
和泉式部
やくもをたさしそちぬへささろくよ心ひころくろるやの面
後拾遺二　言内侍
あろつされ家ハ拾よをさけろを家のうへとちるよ心ひ名ん
後拾遺二　夜系隠方
ろろくまいちをせ伐をくを心ちて松い面ろこひさしろ名ろ
拾表　紫式部
ろしさろろろさ名ろそへぬくさろろにてを山のそれ月
古表
うつをこいろし伐ろろをちくさろろちくされ山名ろろ名て
伊勢集
ろろあひてちくちる声を系ろてワるろをを面をぬるん
後意文　伊勢
いるせをもいひるるれすろさ拾い方をろろもぬせ安名ろ
新古表　伊西遍照
末れ家りをれ雪やをれ中れをれを死ろ名めしるろん
新古表
ろろれの野へをうしをしさへをやろ名の末を人のろろん
拾意一　よみ人しる
伝つをこをれふをろハをうしてをさ名ふやワ名れをさろ名ろん

まかろし

後撰下
いつくとも春のひかりはわかなつむ
[illegible]
拾新上
[illegible]
あすの門[illegible]
古表
すくるめれさみつ[illegible]
拾新春
こちらかうそ白ひをそなへ梅のそれあるー[illegible]
古歌一
[illegible]
後撰中
大空よりはふるさとの[illegible]
古表
[illegible]
古新下
[illegible]

世中はくるくるりよりくるくるくるくるすちるる
古表
[illegible]
さもこそはうつくしのあるけさ[illegible]
後文
[illegible]
ひとりしてさくはるーこさはけるいもうかさるのよとちるそせそや
古歌四
[illegible]
いつくへのこころこへそほくこそすいるこるふまるく
六帖
[illegible]
古秋上
我のこやあくれとせそんこさくするくタけのやまとるそーこ
秋はる成夕まくれそそちるる義の成そされーこる
我為はるるーこさとれつさをのはくそとそとをいさりり

後拾遺
ものともよおさるゝ秋の夕ぐれ
ひとりさや
弥生月いつとさだめられぬ
ひとりとく袖ひちぬ
やれば物やかなしきに
人よりもまさりもまさりぬ
ひるまとなりてひぐれ水ながれ
ながれ
後冬
物ぞとすぐる月日をも
ながめまくらとしもふるまでぬとなく

[illegible]

古秋上
[illegible]
古秋上
梅の花
[illegible]
古秋上
秋ぐれ
[illegible]
古恋上
花のあれやみはあやなく梅の花
[illegible]

[illegible]
やとりめはるやとりそめてとなれ
[illegible]
[illegible]

紅梅

古恋上
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後恋上
[illegible]
後恋下
[illegible]

竹河

古恋上
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

催馬楽
竹川のそこのうもれ水
古今
梅がえにうぐひすなれなくこえはすれど
後撰
春島のいろをもねをもいかにせよ
古今
さくらばなちりかひくもるなかぞらに
後撰中
大空にあはぬよもなくなれなれて
後撰拾遺
ながめてをすぐしなれぬ世ぞなき
ふるさとにひとりぬるとしてをすぐ
古今
ゆくへなきあはぬ名のみをしる人の
催馬楽
竹川のそこ
古今
春はあけぬ
催馬楽
いらなへまくまくさ
初句ナシ

雅楽上
世中をうくひすのなくこえはすれど
新古今
ゆくへなきあはぬ名のみをしる人の
よそ人ちかす
よそ人しる人
よそ人しる人
ひめ
嘗家抄
うゑ石のおもてに拍ハうゑさ十のやうにつくさゝやか
大和物語
ゆくへなきあはぬ名のみをしる人の
大和
雲おこりてをちかたにのみなれぬ
雅楽下
ひとりぬるとしをすぐしの山をゆくりてゆくすゑも
雅楽下
唐のゆくすゑもあさ香なれとなるひつをわ世中れうる
実方朝臣
雅楽
ゆくすゑハ家れいのちもゆくすゑちすれうくの海とちをれい
ゆくすゑ法師
古雅下
ゆくすゑハ数のうをもてをむ世ぞうちやまと人いつかあり
うをもてをこゆる山のうゑかれをくゝさゝゝあれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万

わかぬまれなるあるを秋とまれをあてあやへてんまうあるを

六帖 世のひとのこころくるはるくれいおもをつくしうさいこれまを

拾遺表 世中せいはるあるをんあるはるけさりあれあとれちるる

和名抄 ふかれみるれ山さといいるるんをむ人さくや秋のぬるんん

古歌 ありあやと心をそくあひれいさいむれるさまてそ恋つさ

古今四 夏ふくにうをといをしし秋おくるたまけるをうるれは

後撰下 うち心の紅葉をうはもはのすさり日をとちるすそ行くまし

いるれいあふれ海そうてふ人をうあれてそ物ひねて

後撰下 七夕れあまれ川渡るこひさへをちる人のつれるるん

もみちるれるれてとまるあるろよい白るくもまくこまるぬるをちるさ

古今四 いて人いこれそをされ夏はるうしうろいを夜ことるるて

どりくをてをれるをるや世中をありくるれ四月ちとさをん

伊勢物 うくつくれるけるこあるつ系をを人のむるんんをくそ

和名抄 和名抄ちとろくくさをれをそうるタ物代おるひけるか

新古歌下 世中いとそもくてもおちるくを文をちやまてしるれい

拾遺 くくちのれいやれいるるるうれいは物ちふ時れわるをありけ

古表 あすさくあ四月ちくをれわれをふ人をとるるるりられ

巻くるる山おのあをむすひあけて夜るるあるくを命とくるるか

神おか月いるをさられふるくくくは他ひけかりいをるるき

伊勢 おくれるるやれ星のるひくさいはをてさるやすくをふ人をるき

拾遺四 くれを人のあ一分小舟さるりは海をくるふよあるあくるる

みくるれ他るられくてくをくるあるるれてくく

古今
[illegible]
拾遺
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]世中をありしるべき紙力とやこそ
万
[illegible]の水[illegible]
拾遺
[illegible]
[illegible]

やまとなる

伊勢物
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後撰一
行くへ知らぬ雪の上にあとをのこしてはるかに
古歌之
日くれぬとうちなげくなる
無名
世やいとうきとはつくさあまれうまもすむ宮の我うそうき
元久年中
世中をあはれとおもふ
教盛女
新古歌
なるべかりけり
なにはの人のとしをへぬ
拾表
なにはの人は恨ぬ
中務
なにはの人は
古歌四
なにはの人はうらやましけれ
六帖
人はなにはの
拾遺
あまのすまひ
後撰四
なにはの人はうらやましけれ
実忠朝臣
なにはの人はうらやましけれ
後撰二
むすびもとをしてうらやましけれ
伊勢
なにはの人はうらやましけれ
実忠朝臣
なにはの人はうらやましけれ
古歌下
なにはの人はうらやましけれ
拾遺
なにはの人はうらやましけれ
古歌下
なにはの人はうらやましけれ
拾遺
なにはの人はうらやましけれ
後撰
なにはの人はうらやましけれ

後新一　人のあやの心いやしくあるこそ
古来上　なりつれい雖こそほへ梅花をあらはしてうぐひすなくなり
新古来下　うしてそうへうられ万代をけてうぐひすなくなれ
源氏系　あるこそうとそふれそうらそや　とそあこそ

夕されいのくるくるるうかりのゆこそつるすれなくこ

人丸

あつま

新古来一　つくそ山そ山そけ山そけれとそひ入れさそうそうそう
後拾遺　あつまそそやしそれそう人のまいそたそそ袖はいひれ
古来上　なそり名ん心そつそそセタれそうこ一夜あふそあふそそ
古新上　むしそそれの一そくゆくそむそれそそれそそそそそそあれそそそる
後新一　そそけそ人の心のそそそそのあやそそそそそもみそそれ

後拾遺　大そそそれ被身ひそそれそそそそそそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遠四
古歌一
新勅撰四
古歌下
白雲の
伊勢
猪馬手
古歌四
新勅撰一
大和
人丸
小町

古歌一
古歌
古歌
伊勢
赤染衛門
小町

けうか

後拾遺集
六帖
古歌
人丸
古歌一
古歌
人丸

みすゝけ[illegible]れ[illegible]れ苦しき[illegible]
古拾名 波の音のうへにおそるゝれけるうらせんそれとうらせんそ
後撰 等拾 みちしるべうへにおくるゝ心をくゝ拾[illegible]
後名 心[illegible]
古歌上 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

承應三甲午八月吉日　八尾勘兵衛刊行
澁陽寺町通